

マリンライフ

[Vol. 293]



卵がふ化するまでお世話をする
イソギンポ



イソギンポ

学名： *Parablennius yatabei*

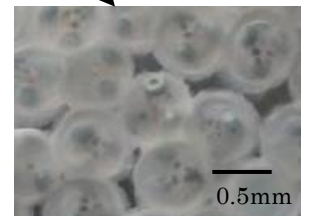
分類：スズキ目イソギンポ科

すむ場所：岩礁海岸や潮だまりの岩の穴やフジツボ、貝殻などのすき間

食性：雑食性。藻類のほか、フジツボやヨコエビ類などの小動物

繁殖期：春から夏

特徴：産卵後はオスが卵のそばにいてふ化までお世話をする



水槽で発見！

特別企画展「牡蠣筏の生き物展」の水槽で、うれしい出来事がありました。飼育しているイソギンポが産卵し、オスが卵を守る姿が見られたのです。一般にイソギンポの卵は大きさ約0.5mmの楕円形で、岩や貝殻などの表面に付着します。水槽には、野外の生息環境に近づけるため、たくさんのカキ殻を入れていますが、今回はカキ殻ではなく、水槽のガラス面に卵が産み付けられていました。たくさんの小さな卵のそばでは、オスがヒレを頻繁に動かし、卵に新鮮な海水を送るような行動を見せていました。

牡蠣養殖施設でも繁殖！

イソギンポは、岩のすき間や貝殻などを利用して暮らす小さな魚です。牡蠣養殖施設にも生息することが知られており、過去の研究では、海中に吊るしたマガキの空殻の内側に産卵し、オスが卵を守っていた例が報告されています。

カキ筏では、カキ殻やそこに付着する生き物によって、大小さまざまなすき間がつくられます。イソギンポは、こうしたすき間をすみかや隠れ場所として利用しています。また、カキの周りには付着藻類のほか、ゴカイの仲間やフジツボ、ヨコエビなど、イソギンポのエサになる小さな生き物も多く暮らしています。私たちが観察したカキ筏でも、イソギンポは1年を通して確認される代表的な生き物のひとつでした。

今回、水槽で産卵する姿を観察したことで、海のカキ筏でも、カキ殻のすき間をすみかにし、エサをとり、ときには卵を産みながら、次の世代へ命をつないでいる様子が想像できます。

野外でふ化した仔魚は、しばらく海中を漂いながら成長し、その後、沿岸の岩や貝殻のすき間、カキ筏などで暮らすようになります。

カキを育てるための筏は、イソギンポにとって「隠れる・食べる・産む」ことのできる、暮らしの場所にもなっているのです。

さとうみ科学館の仕事を体験！

8月19日から21日までの3日間、職場体験学習「キャリア・スタート・ウィーク」が行われました。

さとうみ科学館では、教育普及や調査研究など、日常の仕事の一部を中学生のみなさんに体験してもらいました。江田島中学校と大柿中学校の生徒7名の感想をご紹介します。



職場体験の内容

- ・講義
「地域の教育資源としての役割」
「牡蠣養殖とそこにくらす生き物について」
- ・採集
アカテガニ・クロベンケイ採集
- ・企画展準備
オブジェ制作
- ・児童クラブ支援
- ・水槽メンテナンス
- ・展示物作成・整理
- ・図書整理
- ・館内清掃
- ・広報 ニュースレター作成・発送準備

～3日間で学んだこと～

江田島中学校 舩田 啓悟

仲間と協力しながら、生き物や人と交流することの大切さです。水槽の掃除をするときも、仲間と一緒に協力して活動することで、だんだん仲良くなることができました。

児童クラブでのスライム作りでは、子どもたちが怖がらないように、やさしく接することを心がけました。この三日間は、僕がこれからどんな大人になりたいのかを、よく考えるきっかけになりました。三日間、本当にお世話になりました。

大柿中学校 荒川 祐誠

仲間と協力することの大切さです。また、魚の水槽掃除では、生き物が苦手な人がいると、作業にもっと時間がかかることもわかりました。カキのオブジェを作製したときは、牡蠣筏の仕組みについて学びました。ホタテの貝が何個も繋がっていることなどを知り、牡蠣についてさらに深く学ぶことができました。この職場体験を通して、楽しく仕事をすることができました。本当にありがとうございます。

大柿中学校 飯田 凜太郎

仲間と協力することの大切さと、生き物の大切さです。水槽を掃除する時には、仲間と協力して作業することで、初めて出会った人とも仲良くなることができました。生き物を海で捕まえるときには、生き物の生態や自然について学ぶことができました。三日間、本当にお世話になりました。

大柿中学校 式根 環

一緒に活動するなかまとのたすけあいや協力の大切さです。ほかに、魚の水槽の掃除をしたり、小学生といっしょにスライムを作ったりしました。小学生に優しく接することも学びました。この三日間の中で学んだことを思い出し、これからの生活にいかしていきたいです。三日間、ありがとうございました。

大柿中学校 立岩 雷智

水槽の掃除の仕方や、礼儀やマナー、小学生に優しく接する方法などです。この三日間で学んだことを思い出しながら、動物を飼うときの大切なことや、礼儀やマナーを、これからの生活でも生かしていきたいです。

三日間本当にありがとうございました。これからもさとうみ科学館で学んだことを忘れません。

大柿中学校 中元 佑哉

仲間と助け合いながら協力することと、自然の大切さについてです。児童クラブでの活動では、小学生にわかりやすく説明し、優しく接することを心掛けました。生き物を捕まえるときには、自然と触れ合うことができ、とても楽しかったです。三日間、本当にお世話になりました。

大柿中学校 平本 晴人

僕が三日間の職場体験で学んだことは、みんなと仲良くすることの大切さです。カニの水槽を作るときには、仲間と協力して作ることができました。児童クラブでは、子どもたちといっしょにスライムをつくり、みんなと仲良くすることができて楽しかったです。

自己紹介



講義



児童クラブ支援



水槽メンテナンス



ニュースレター作成



生物採集



企画展準備



図書整理



やってみよう 見てみよう

「手乗りガニ！」の巻

この夏、野外観察や職場体験などで、採集・観察することが多かった「アカテガニ」や「クロベンケイガニ」。その大きなハサミ脚で、こどもたちを怖がらせます。ですが、ちょっと触り方を教えると、あっというまに“手乗りガニ”に大変身！その触り方を紹介しましょう！

【“手乗りガニ”にチャレンジ】



- ① ある程度フラットな場所にいるカニを選ぶ。
- ② 両手でカニを上から覆う（暗くしてあげると安心）。
（挟まれないので怖がらないで）
- ③ カニの腹側に手を入れ、両手でそおっとすくってあげる。
- ④ “手乗りガニ”の完成～！

～ ※ポイントはゆっくりした動作で！※ ～
手を素早く動かしたり、追いかけて無理やり捕まえようとしても、逃げられたり、ハサミを振り上げて抵抗されるだけです。場合によっては攻撃されて・・・(泣)



いきなりはNG！

カニといえば、“甲を持つ（体の左右をはさむ）”というイメージがありますが、いきなり甲をつかもうとしても逃げられたり、ハサミで威嚇されたり、結構難しいものです。また、お腹と背中をはさんで持つ場合もありますが、これもハサミではさまれる危険性があるので、慣れないければ、両手に載せてあげるのが1番です！



◆ 他にもあるよ！！ Let's Try ! ◆

“恐怖”が消えれば、次に“愛着”や“疑問”が生まれるもの。こどもたちの中には、「海の水はいらないの？」「陸の上で、どうやって息をしているの？」と心配する子もできます。「アカテガニ」たちは海で生まれ、陸上で生活するようになるカニたちです。海から離れた陸上で暮らすためには、水をできるだけ無駄にしないことが大切！「せっかく“手乗りガニ”になったんだから、じっくりみてみたら～？」と言うと、「眼と眼の間、水があふれてる～！？」と気付いてくれる子も（写真）。陸上生活に適應したカニたちは、体の内側と外側で水を循環させながら、その途中で酸素を取り込む、つまり、水を何度も利用できる仕組みを持っています。



【クロベンケイガニ】
（眼と眼の間に水があふれています）

※館公式Instagramには動画もあるのでみてね！

えたじま さとうみぼん

さとうみ科学館にて
数量限定配布中!

増刷決定！一般配布開始

マリンライフ (Vol.288) でも紹介した「えたじま さとうみぼん」が、増刷されることになりました!

当初は江田島市内の小・中学生を対象に配布していましたが、増刷決定により、数量限定で一般の方にも配布します。

「えたじま さとうみぼん」は、海へ出る前に知っておきたいことや準備しておきたいこと、江田島市の海で楽しめる活動、気をつけたいポイントなどを紹介した一冊です。安全に楽しく海とふれあい、学ぶためのヒントがたくさん詰まっています。

これから海で遊びたい方、江田島の海をもっと知りたい方にもおすすめです。ご希望の方は、さとうみ科学館事務局までお問い合わせください。



潮見表 10月の観測に適した日時 (干潮時刻と潮位)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	
時分	6:04	6:44	7:33	8:47	10:44	0:28	1:19	1:58	2:34	3:08	3:40	4:11	4:40	5:08	5:36	
cm	32	49	74	101	111	175	141	107	79	57	41	34	32	38	48	
時分	18:32	19:19	20:30	22:54		12:17	13:20	14:07	14:48	15:24	15:58	16:31	17:02	17:32	18:03	
cm	141	174	201	204		97	78	64	59	63	75	91	110	130	150	
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜日	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
時分	6:05	6:37	7:18	8:23	10:27	0:27	1:05	1:38	2:10	2:43	3:17	3:52	4:29	5:07	5:48	6:34
cm	64	85	109	132	142	169	140	108	77	48	23	6	-3	0	13	36
時分	18:38	19:22	20:39	23:24		12:03	13:00	13:44	14:24	15:02	15:40	16:18	16:58	17:40	18:26	19:23
cm	170	189	204	195		129	109	91	78	73	76	87	104	126	149	169

cmの数字が小さいほど、よく潮が引きます。

令和8年 潮汐表 (海上保安庁) から

潮位30cm未満 (白抜きの文字) が調査に適しています。

事務局だより

- 「牡蠣筏の生き物展」が新聞で紹介されました
9月5日付の中国新聞で、特別企画展「牡蠣筏の生き物展」が紹介されました。記事では、約1年間にわたる水中調査で確認した魚や付着生物の様子をはじめ、カキ筏が餌場や隠れ場、産卵場所として利用され、多くの生き物を育む「海のゆりかご」となっていることを紹介。また、実寸大のカキ筏展示や水中映像、海の環境と牡蠣養殖との関係など、企画展の内容をたくさん取り上げていただきました。

●ニュースレター (カラー版)

右のQRコードよりさとうみ科学館のHPにアクセスいただくとニュースレターをカラーでご覧になれます。最新号の他に過去6か月分のニュースレターを掲載しています。



●休日開館日 (10月) のお知らせ

10月も毎週土曜日を開館。開館時間は9:30-17:00 (入館は16:30まで) です。詳しくは事務局までお問い合わせください。

江田島市教育委員会 教育部 大柿自然環境体験学習交流館

さとうみ科学館
Satoumi Science Museum (SSM)

〒737-2214

広島県江田島市大柿町深江1073番地1

TEL: (0823) 57-2613

FAX: (0823) 40-3100

メール: satoumimail@yahoo.co.jp

HP: 『さとうみ科学館』で検索

◆事務局スタッフ◆

館長: 西原 直久
専門員: 平山 良太
主任: 鎌崎 賢三
運営指導員: 下中 茂樹
運営指導員: 加島 茂樹
支援員: 木村 さつき
野コーディネーター: 向井 綾香



(友の会会員)

シニア 183名

ジュニア 144名

◆あとがき◆特別企画展が始まって半月が経ち、多くの方にご来場いただいています。会場では、展示内容の追加や更新も少しずつ行っていますので、2度、3度と足を運んでいただくと、前回とは違った発見があるかもしれません。ぜひお越しください! (鎌崎)